

設計演習特論

10

1. 関西都市型防災拠点構想

■設計概要

課題期間:5/23(木)~7/22(月)

指導教員:遠藤秀平、榎橋修、福岡孝則

課題文:

「日本に残る都心最後の一等地と言われる大阪駅北地区(通称北ヤード)は現在までに梅田貨物駅、コンテナヤードとしての機能を終え、新しい関西の中心としての再生を多くの人が期待をよせる場所となっている。本年度の設計演習特論はこの大阪駅北地区を対象地に未来の都市を構想することを課題とする。

キーワード:

- ①南海トラフ地震等災害に対して強靭な都市
- ②関西のキャピタルとしての機能
- ③新しいエネルギー循環型の都市
- ④ヴァーティカル・グリーンシティ
- ⑤都市のライフスタイル、新しい大阪の未来都市を挙げる。

神戸大学大学院修士一年での演習特論の設計課題は、前半と後半の二作に分かれます。後半課題として設定されたこの「関西都市型防災拠点構想」では、参加者を4つのグループに分かれて、それぞれのテーマを設定し日常においても魅力的な未来の防災都市のあり方を模索しました。

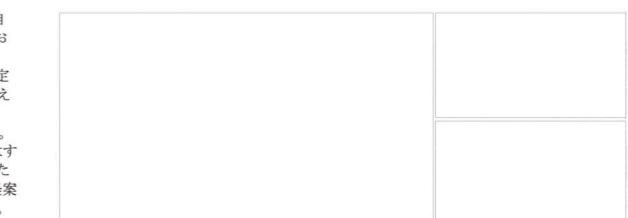


防災拠点がなぜ都市に必要なのか。

私たちは東日本大震災を経験し、都市の脆弱さ、自然災害の恐ろしさを目の当たりにしました。関西においても、近い将来南海トラフの変動による巨大地震や巨大津波等の災害が起こると想定されており、防災拠点の必要性が高まっているといえます。現在の都市は経済やインフラなどの機能がすべて中心部に一極集中しています。それは経済的・合理的であると同時に、災害時にはすべての機能が停止する危険性を孕んでいます。私たちは、都市災害を経験した関西だからこそ出来る提案を、関西の中心地である大阪・梅田に構想しました。

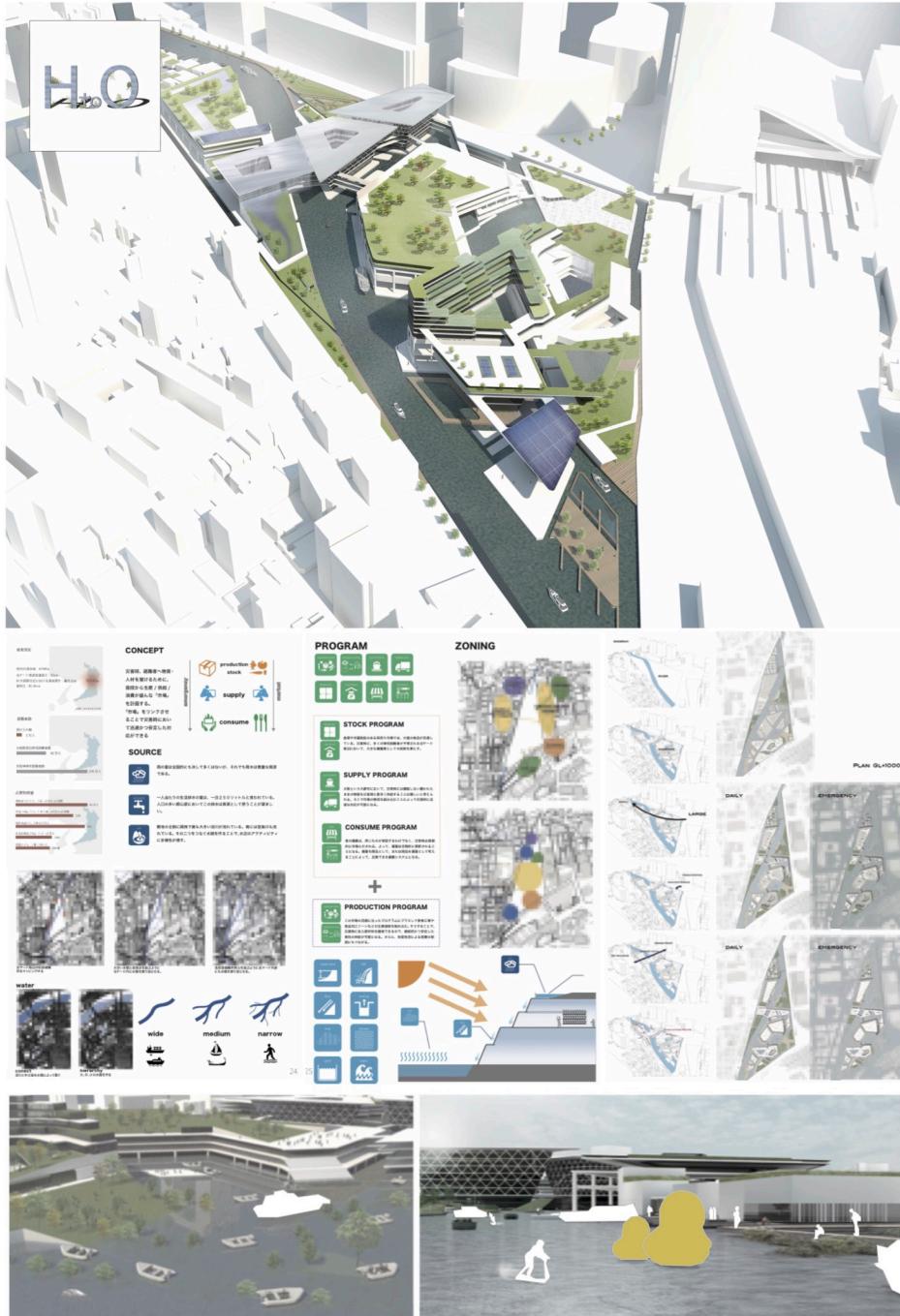
■学内講評会7/22(土)

講評者：遠藤秀平、榎橋修、福岡孝則



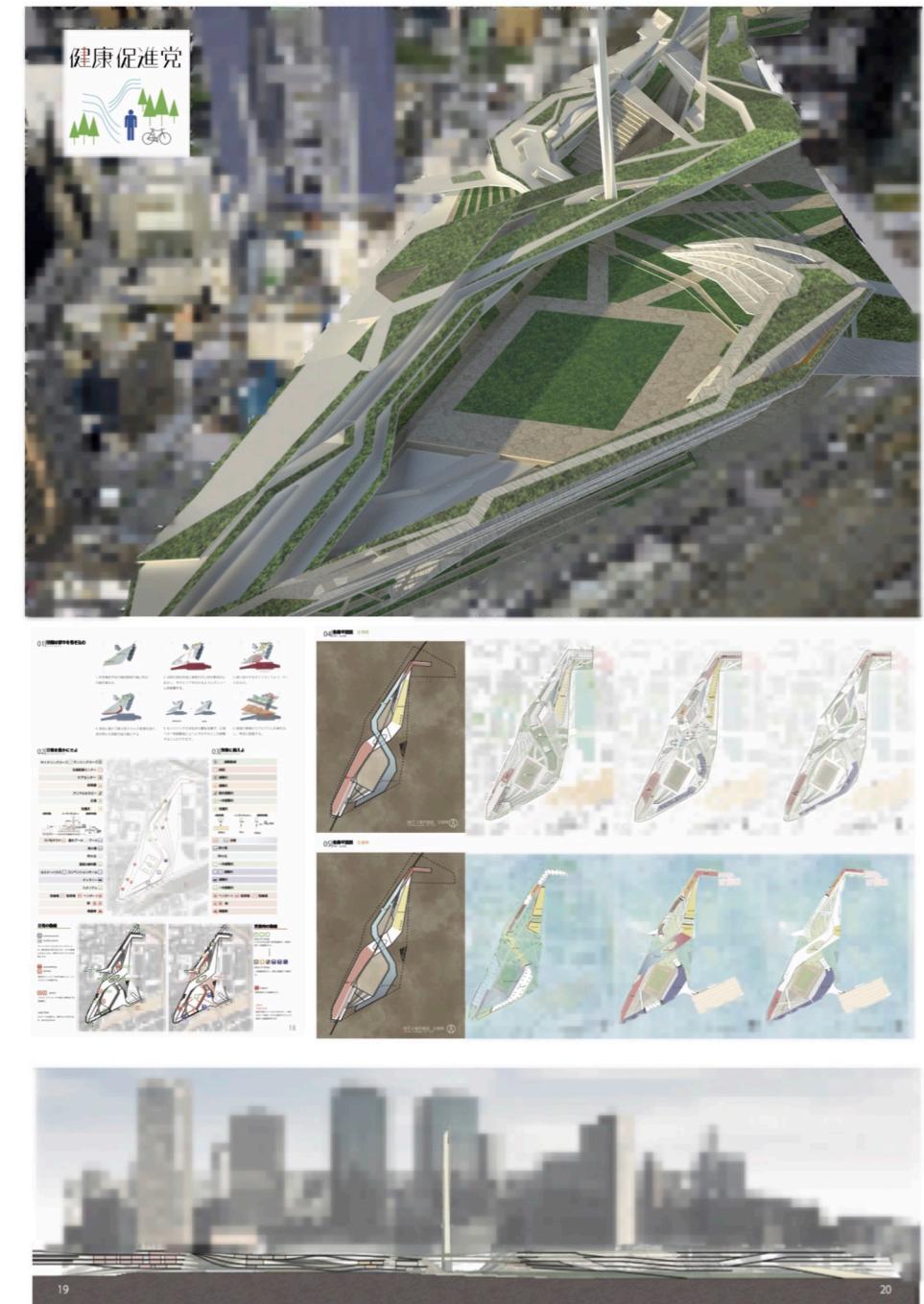
H to O

谷口豪、里中俊裕、西田翔、磯谷二朗



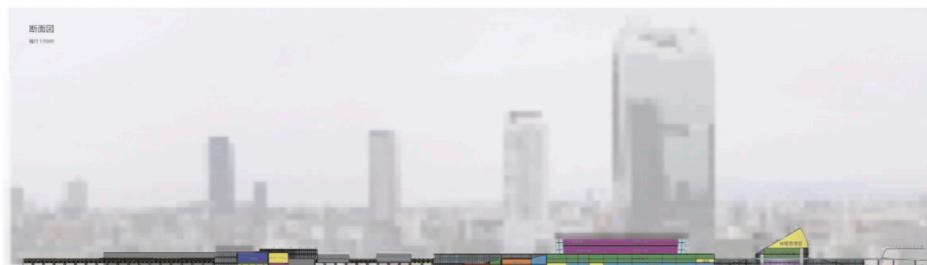
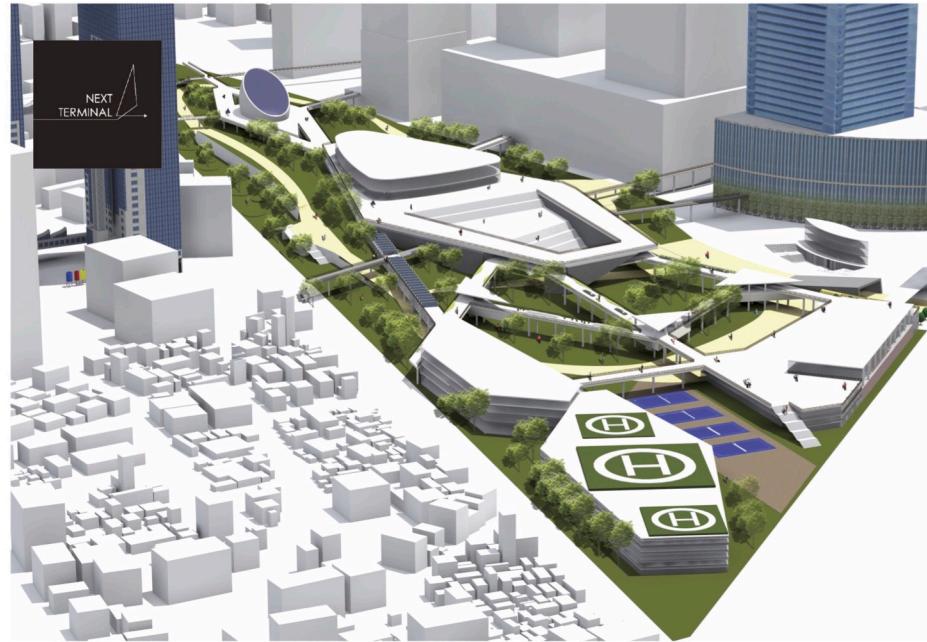
健康促進党

猪部開、竹内一貴、徳永悠希、森崇裕、吉野真美



NEXT TERMINAL

磯村和樹、阪本昌則、松井敬二郎、近藤陽平、李海寧



Dual City Osaka

榎本瑞樹、家門生未、粉川壯一郎、小林大祐



■課題設計展「梅田北ヤードに関西都市型防災拠点を構想せよ」

KANSAI URBAN DISASTER PREBENTION SHELTER BASE

会場:ASJ UMEDA CELL（大阪市北区角田町8-1 梅田阪急ビルオフィス24階）

展示期間:10/7(月)～10/16(水)

企画展示:学部生による設計課題「神戸ランプラスティ計画」

今回の課題を通して、神戸大学内の一つの設計課題にとどまらない、広い社会と多方向の議論の場を持つことの重要性を感じ、そこで私たちは、課題の成果を対外的に発表し、建築・都市デザイン、ランドスケープの専門家の外部講評者をゲストとしてお迎えして、皆様と議論する場を企画しました。

企画展示では学部生の設計課題の展示も行い、学部と大学院の二つの課題を通して、今の学生が都市に対してどのような視点や発想を持っているのかを知って頂ける機会としても考えています。



■外部講評会1 10/12(土)

講評会ゲスト



講評会コーディネーター



■外部講評会2 10/21(月)

講評会ゲスト

